

守山企業景況調査報告書

(第16回)

平成25年7月～平成25年9月期 実績

平成25年10月～平成25年12月期 見通し

守山企業景況調査について

(平成 25 年 7 月～平成 25 年 9 月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 71 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	20	100.0%
製造業	13	11	84.6%
建設業	12	12	100.0%
サービス業	20	20	100.0%
卸売業	6	6	100.0%
合計	71	69	97.2%

3. 調査期間

調査期間は、実績を平成 25 年 7 月～平成 25 年 9 月、見通しを平成 25 年 10 月～平成 25 年 12 月とし、調査時点は平成 25 年 10 月 31 日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」の DI 指数は 3 カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

平成 25 年 7 月～9 月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果は DI 指数（景気動向指数）を用いて示している。

DI は、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」・「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DI が±0 の状態であれば、「増加」・「好転」等の企業割合と「減少」・「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆に DI がマイナスの数値であれば、「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

平成 25 年 7 月～9 月期の調査結果では、売上高は少し指数が改善したものの、その他の指数は悪化している。

<業況>

業況 DI は▲10.4 と前回調査に比べて 1.8 ポイント下降した。業種別では、小売業が 12.9 ポイント低下の▲57.9、製造業は 47.7 ポイント上昇の 40.0、建設業が 8.3 ポイント下降の 41.7、サービス業が 5.0 ポイント下降の▲25.0、卸売業が 40 ポイント下降の 0.0 であった。製造業が大きく上昇した以外は全て下降した。

10～12 月期の見通しは、全体で▲13.2 と 7～9 月期の実績から 3.2 ポイント下っている。

<売上高>

売上高 DI は▲5.8 と前回調査に比べて 1.2 ポイント上昇している。業種別では、小売業が前回調査と同じの▲50.0、製造業が 20 ポイント上昇の 36.4、建設業が 25 ポイント下降の 25.0、サービス業が 13.3 ポイント上昇の▲20.0、卸売業が 30 ポイント下降の 50.0 となった。製造業とサービス業が共に上昇したのに対して、小売業、建設業、卸売業が低下している。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）DI は▲23.5 と前回調査に比べて 7.6 ポイント下降している。業種別には、小売業が▲50.0 で前回調査と同じ、製造業が 0.0 と 9.1 ポイント下降、建設業が 8.3 で 32.5 ポイント下降、サービス業が▲36.8 で 8.2 ポイント下降、卸売業が 0.0 で前回調査と同じであった。

10～12 月期見通しでは、全体で▲18.8 と 7～9 月期の実績に比べて 4.7 ポイント上昇となっている。

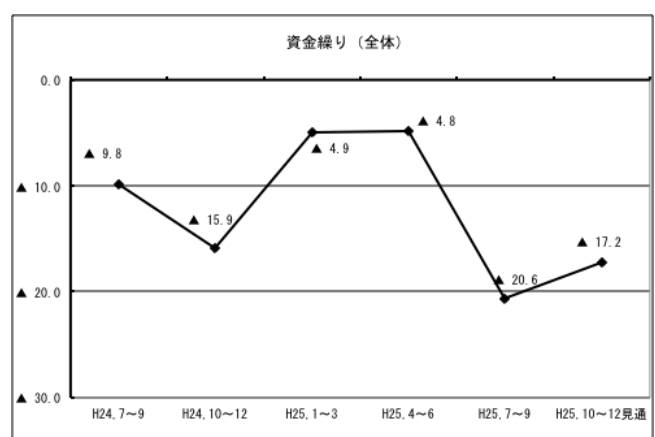
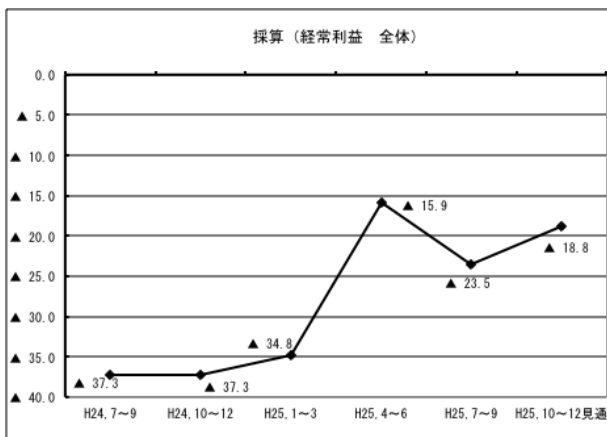
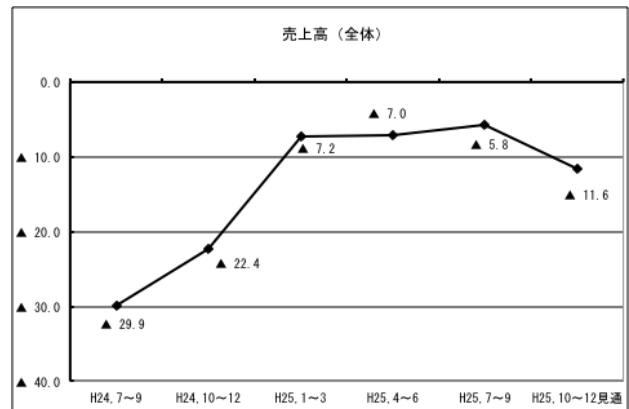
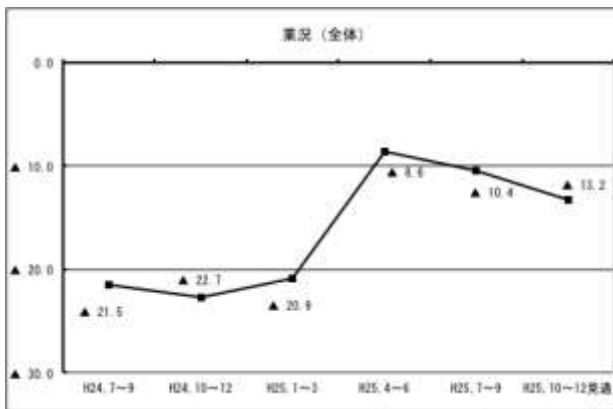
<資金繰り>

資金繰り DI は▲20.6 と前回調査に比べて 15.8 ポイント下降している。業種別では、小売業が 16.6 ポイント低下の▲33.3、製造業が 10 ポイント上昇の 0.0、建設業が 25 ポイント下降の▲8.3、サービス業が 16.7 ポイント低下の▲27.8、卸売業が 41.7 ポイント下降の▲16.7 となった。

10～12 月期見通しでは、▲17.2 と 7～9 月期の実績に比べて 3.4 ポイント下降となっている。

<その他の意見>

- ・ 高齢者が若い人を教育費や生前贈与でサポートする社会構造ではなく、若い人の所得で高齢者の老後の世話をできる所得分配構造の変化が必要。若い人の所得が伸びないと将来的な需要も伸びないと考えます。
- ・ アベノミクス、オリンピック等で消費が刺激され、景気が向上すると思います。



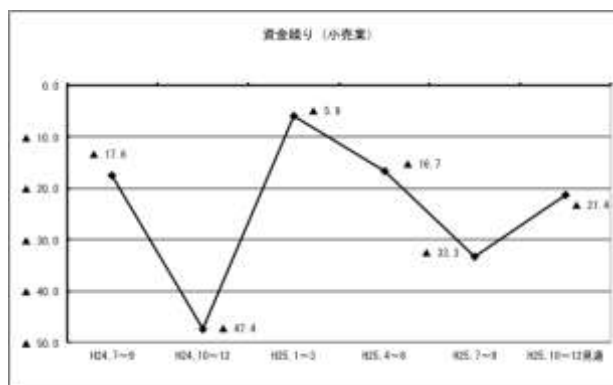
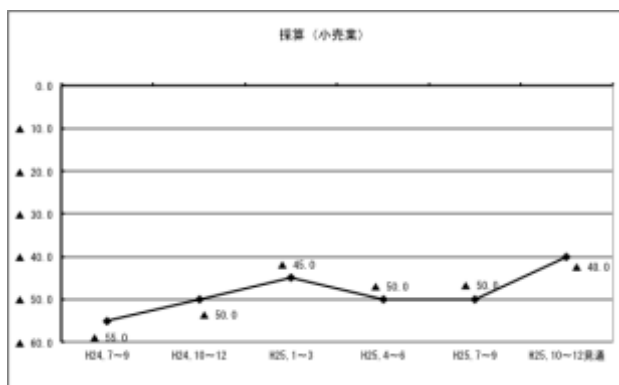
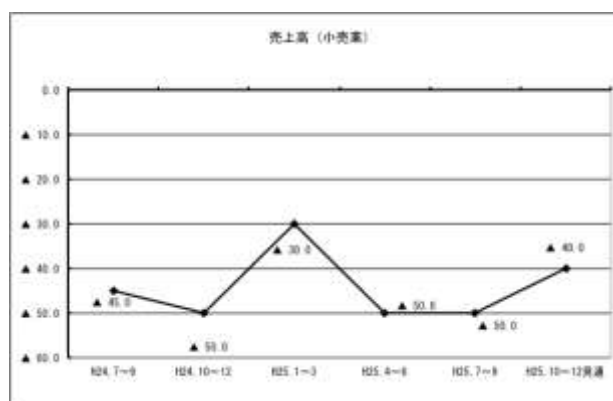
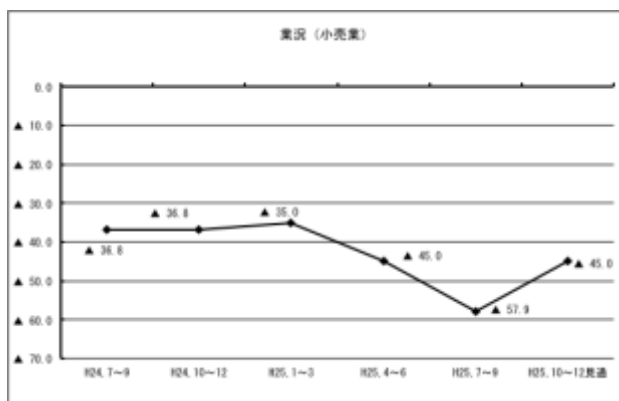
小売業

小売業の業況DIは▲57.9と前回調査より12.9ポイント下降している。個別の調査結果を見ると、業況が良いと答えた結果は5.3%しかなく、小売業の業況はかなり厳しいようである。10月～12月見込みは▲45.0と7月～9月実績よりも少しは持ち直しているかのように見えるが、それでも大きくマイナスであるので、これを持って持ち直しが期待できるとは言いがたい。

売上高DIは▲50.0で前回調査と同じであった。1月～3月期に▲30.0を記録したのが今年の最高値でそこだけが山になっている。わずかでも光が見えると良いのであるが、指標を見る限り、光が見えないのが実態のようである。10月～12月の見込みは▲40.0と10ポイント上昇であるが、業況と同じくこれを持って盛り返しているとはとても言えない状況である。

採算（経常利益）は▲50.0となり、前回調査と同じ結果であった。業況、売上高ともに良い結果が出ていないので、採算が悪くなるのは当然の結果である。個別の結果を見ると、客数、客単価、仕入れ額が悪くなっているようで、採算が悪くなる要因が揃っていると言える。10月～12月見込みは▲40.0と回復のように見えるが、これとても回復とは言いがたい。

資金繰りDIは▲33.3で、前回調査より16.6ポイント下降している。1月～3月期に▲5.9まで指標が良くなったが、2四半期連続で指標が下降している。売上、採算が悪くなれば資金繰りが良くなるとは考えられないので、当然の結果とも言える。10月～12月見込みは▲21.4で指標は上昇している。



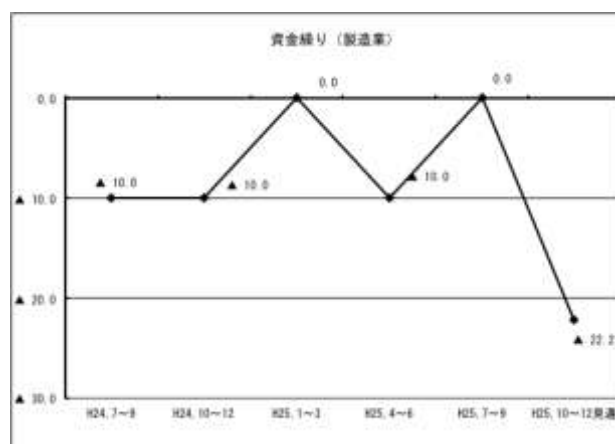
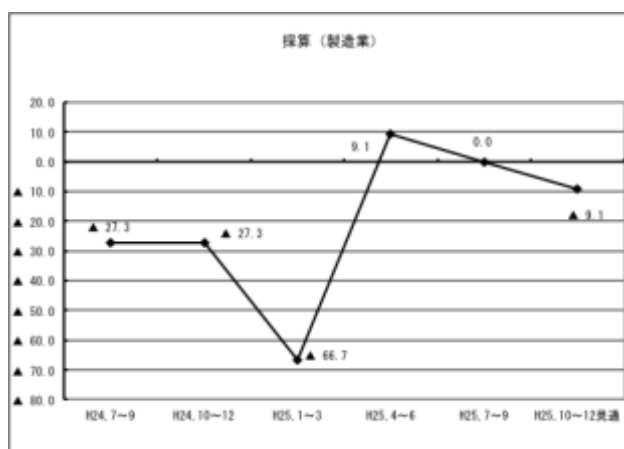
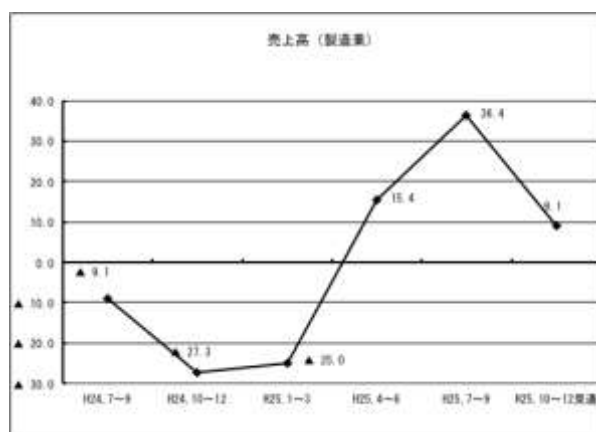
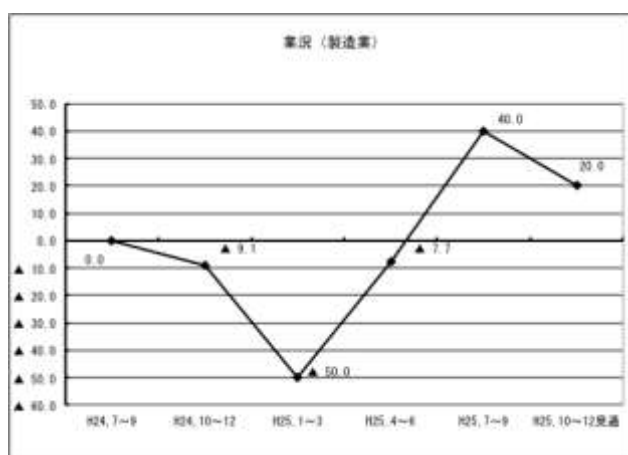
製造業

製造業の業況DIは40.0と前回調査より47.7ポイント上昇した。今年1月～3月期が▲50.0であったので、2四半期で急激な回復を見せている。個別の調査結果を見ると、悪いと答えた割合が0%であり、製造業全体が活性化されているようである。10月～12月期の見込みは20.0と指標としては下っているが、これまでに比べると高レベルの数値である。

売上高DIは、36.4と21ポイント上昇している。前回調査でマイナス指標から脱出し、その勢いが続いているようである。今期の引き合いDIも30.0と好調である。10月～12月期の見込みは、9.1と7月～9月実績に比べると急落であるが、前回調査の7月～9月見込みでも同じような結果がでており、慎重な見方をしていると解釈することもできる。

採算（経常利益）DIは0.0で前回調査の9.1から下降している。この四半期だけの採算を見ると、18.2とプラスの指標が出ている。10月～12月見込みは▲9.1となっており、原材料の値上がり等が影響すると見ているようである。

資金繰りDIは0.0と前回調査より10ポイント上昇した。資金繰り指数は▲10から0の間を上下しているのがここ1年の動きである。10月～12月期の見込みは▲22.2と過去1年の中では大きく下落している。売上、採算が下落見込みなので、資金繰りも下落するということであろうか。



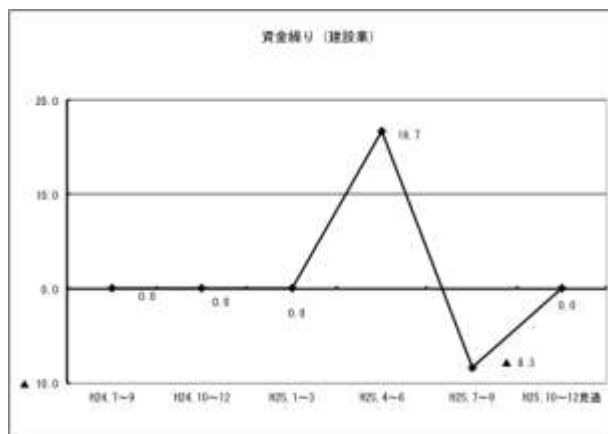
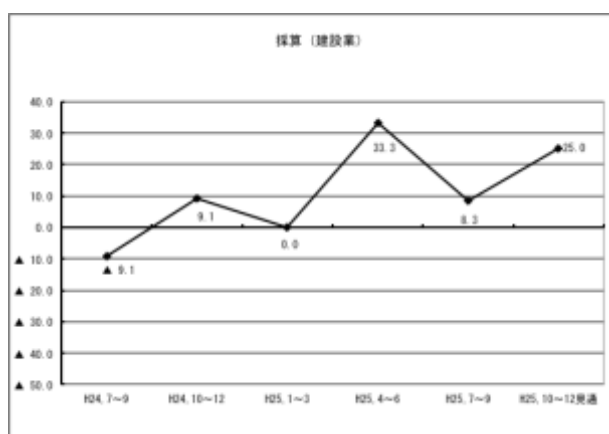
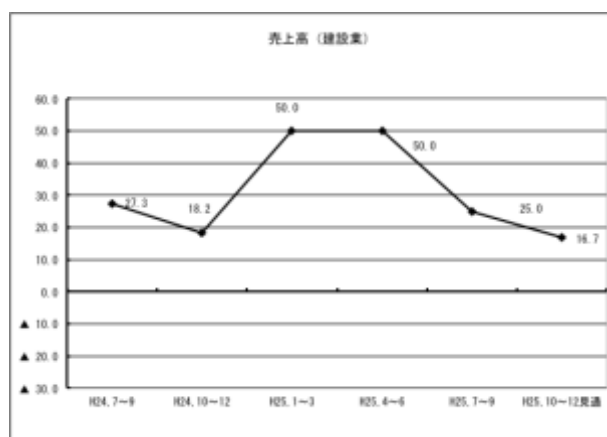
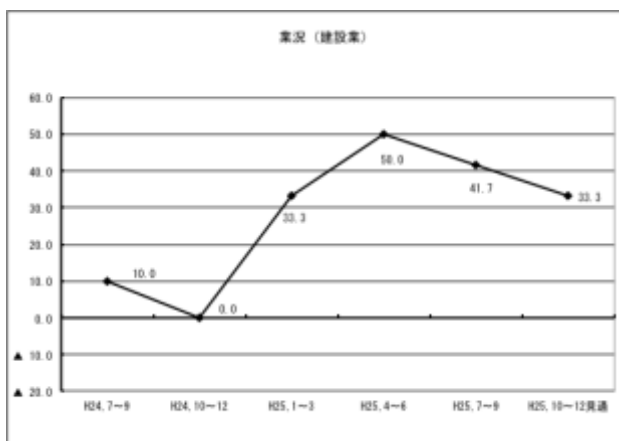
建設業

建設業の業況DIは41.7で前回調査より8.3ポイント下降した。今年に入って33.3、50.0、41.7と高水準の指標が出ており、建設業は好調を維持していると考えてよさそうである。10月～12月期見込みは33.3と7月～9月実績を下回っているが、それでも水準は高いと考えられる。

売上高DIは25.0と前回調査より25ポイント下降した。売上高は50.0、50.0、25.0という経緯であり、ここだけを見ると息切れ感が出てきている。10月～12月期見込みはさらに下って16.7となっており、陰りを感じているようである。

採算（経常利益）DIは8.3と前回調査から25ポイント下降した。売上高と同じく、採算も少し悪くなってきているようである。10月～12月期見込みは25.0と採算は回復する見通しで、売上高とは逆の動きになっている。

資金繰りDIは▲8.3と前回調査より25ポイント下降した。この指標自体が動きの少ない指標であるので、25ポイントも動く大きな動きであるが、過去1年では0.0付近を前後しており、前回調査が高位であったと考えることができる。10月～12月期見込みは0.0と戻しており、そのことを裏付けるかのような調査結果が出ている。



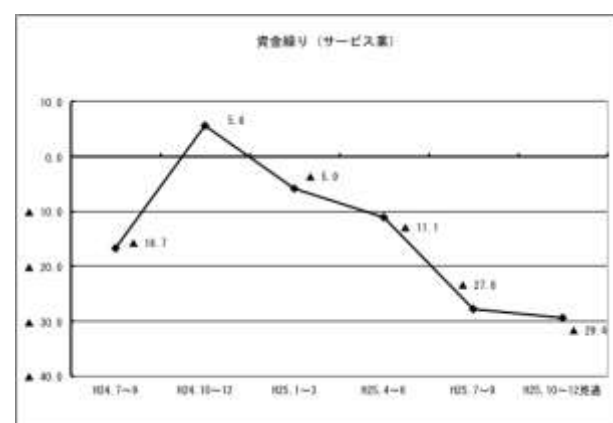
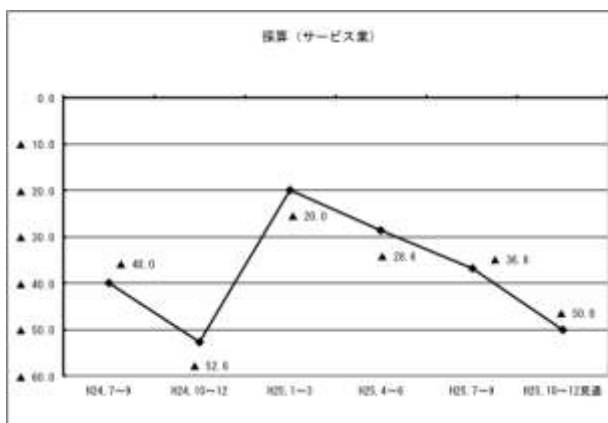
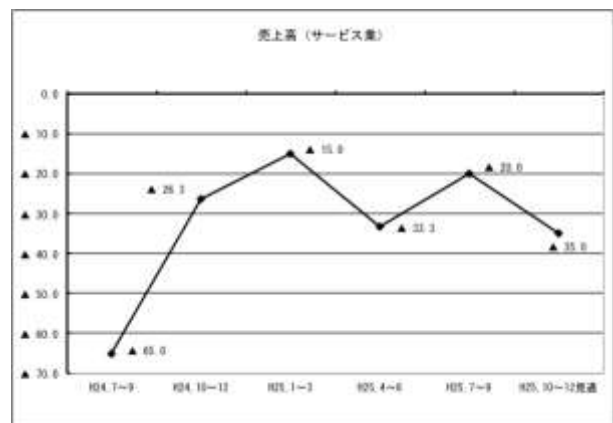
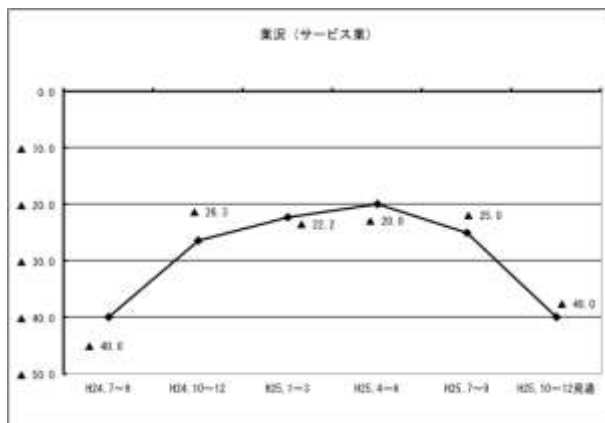
サービス業

サービス業の業況DIは▲25.0と前回調査より5ポイント下降した。前回調査まで4四半期にわたり指標が上昇していたが、今回調査で下降してしまった。過去1年のグラフを見るときれいな山型になっていることがわかる。10月～12月期見込みが▲40.0となっているので、上昇局面が終り、下降局面に入ったことがはっきりわかる。

売上高DIは▲20.0と前回調査を13.3ポイント上回った。前回は前々回から18.3ポイント下ったので、下った分だけ回復したと見ることができる。10月～12月期見込みは▲35.0となっているので、業況と同じく下降局面に入ったと感じる事業所が増えている可能性は高い。

採算（経常利益）DIは▲36.8と前回調査より8.2ポイント下降した。今年1月～3月期の▲20.0から2四半期連続で下っており、採算上も下降局面であることが鮮明になっている。10月～12月期見込みも▲50.0と下降の一途をたどる見込みが出ている。

資金繰りDIは▲27.8となった。業況、売上高、採算の3指標が下降するので資金繰りもおのずと下降すると考えられる。10月～12月期見込みは▲29.4でこの傾向は続くようである。



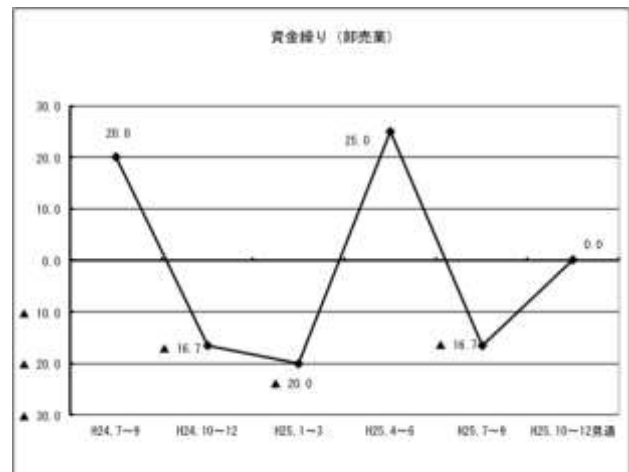
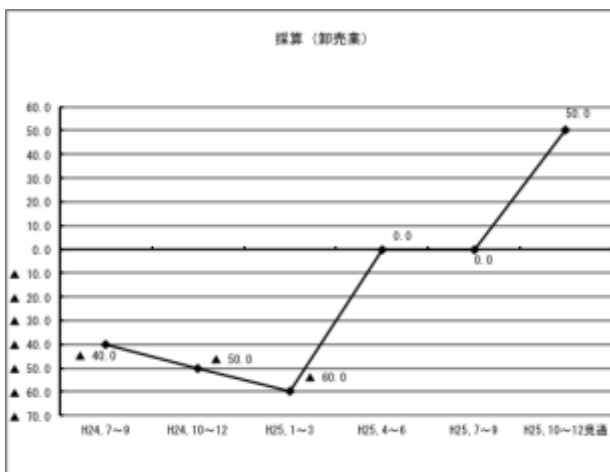
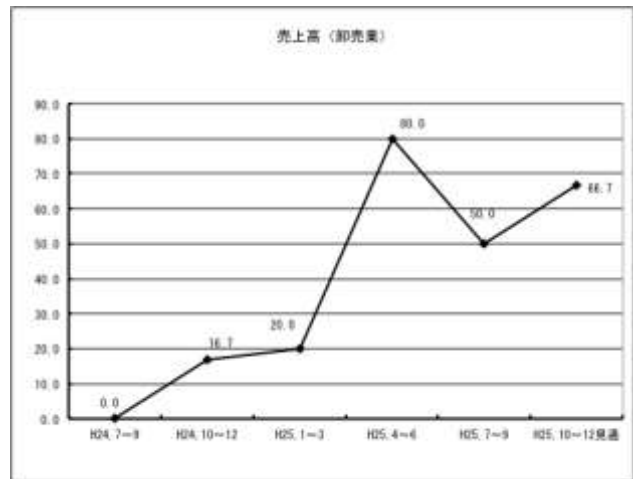
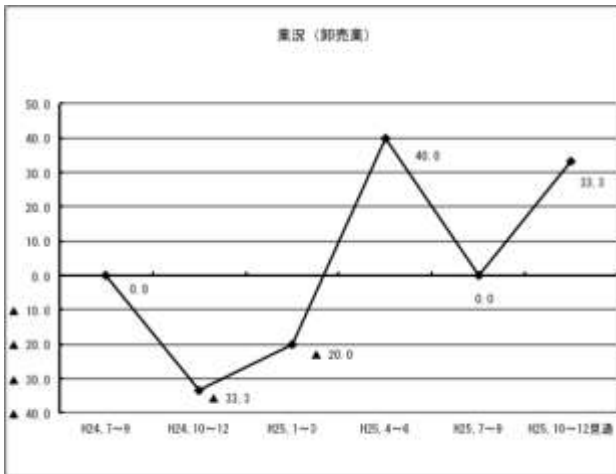
卸売業

卸売業の業況DIは0.0と前回調査より40ポイント下降した。0.0は前年同期並みと回答した事業所が多かったことによるものであり、悪くなったわけではなさそうである。その表れか、10月～12月期見込みは33.3と反転している。

売上高DIは50.0と前回調査より30ポイント下降したものの、好調のようである。過去1年以上上り続けてきた売上高DIは今期息継ぎの様子になっている。10月～12月期見込みは66.7と再び上昇を予想しており、好調の様子である。

採算（経常利益）DIは0.0と前回調査と同じであった。10月～12月期見込みが50.0となっているのを考えると、売上高と同じく息継ぎ状態のようである。

資金繰りDIは▲16.7と41.7ポイント下降した。売上高や採算が息継ぎ状態に入ったことが影響していると見ることができる。10月～12月期見込みは0.0と回復しているの、売上高や採算が上昇すると資金繰りも回復するというしごくもったもな動きになっている。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	7～9 月期 動向	10～12 月 期見通し	7～9 月期動 向	10～12 月 期見通し	7～9 月期動 向	10～12 月 期見通し
全 体	▲10.4	▲13.2	▲5.8	▲11.6	▲23.5	▲18.8
小売業	▲57.9	▲45.0	▲50.0	▲40.0	▲50.0	▲40.0
製造業	40.0	20.0	36.4	9.1	0.0	▲9.1
建設業	41.7	33.3	25.0	16.7	8.3	25.0
サービス業	▲25.0	▲40.0	▲20.0	▲35.0	▲36.8	▲50.0
卸売業	0.0	33.3	50.0	66.7	0.0	50.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	7～9 月期動 向	10～12 月 期見通し	7～9 月期動 向	10～12 月 期見通し	7～9 月期動 向	10～12 月 期見通し
全 体	▲1.4	6.0	0.0	▲15.4	▲10.4	▲4.5
小売業	▲5.0	0.0	▲16.7	▲5.9	▲33.3	▲16.7
製造業	18.2	27.3	30.0	18.2	18.2	20.0
建設業	16.7	9.1	18.2	8.3	▲8.3	▲8.3
サービス業	▲20.0	▲10.0	▲26.3	▲26.3	▲10.0	▲5.0
卸売業	0.0	33.3	50.0	33.3	0.0	0.0

	3 カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	7～9 月期動 向	10～12 月 期見通し	7～9 月期動 向	10～12 月 期見通し	7～9 月期動 向	10～12 月 期見通し
全 体	▲20.6	▲17.2	6.0	4.0	5.9	4.1
小売業	▲33.3	▲21.4	▲8.3	▲8.3	▲7.7	▲8.3
製造業	0.0	▲22.2	22.2	11.1	22.2	11.1
建設業	▲8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
サービス業	▲27.8	▲29.4	15.4	15.4	15.4	16.7
卸売業	▲16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

過去からの動向

